



犬走天満宮



徐福像

黒髪山の南東にある山内町に犬走という地区があり天満宮があります。この鳥居の石段を登った神殿の横に祠が建ち、中に徐福が祀られています。

「阿房宮」の文字が入った硯が発見されたのが山内町です。後の調査でこの硯は始皇帝の時代の物ではなくて清時代のものとされました。

吉野ヶ里遺跡（佐賀県神埼郡吉野ヶ里町・神埼市）



吉野ヶ里遺跡から発見された絹や人骨などが中国と深く関わっていることもわかってきました。これらは徐福と吉野ヶ里遺跡とを結びつける史料ともなっています。徐福に同行してやってきた人たちが、吉野ヶ里に住み着き、一大王国を築いていったのではないのでしょうか。

徐福は最初に九州に住みつき、数年後、蓬萊山をめざしてさらに東方に船出しました。そして、九州南部の各伝説地に立ち寄りながら、四国から紀伊半島へと黒潮や季節風を利用して向かっていったと考えています。しかし、この船出に同行せず、九州西北部の地に定住した者たちもいたのです。徐福の子孫たちがここで「クニ」をつくっていったのかもしれませんが、それが吉野ヶ里遺跡と考えてもよいかもしれません。

